



1555D

態度を改むるを欲せず百方支那事変の收結を妨害し  
さらに蘭印を便服し佛印を脅威し帝國と泰國との親交を割  
かむがため策動致うざるなし すなわち帝國とこれに南方諸邦と  
の間に兵燹の關係を増進せんとする自然的要求を阻害するに當  
りなし。その狀あたかも帝國を敵視し帝國に對する割意の  
攻撃を實施しつゝあるものごとく遂に無道にも經濟斷交の  
舉に出づるに到れり およそ交戦關係にあらずる國家間におけ  
る經濟斷交は武力による挑戰に比すべき敵對行動にして其自  
體默過し得ざるものとすしかも兩國はさらに與國を誘引し  
て帝國の周辺に武力を増強し帝國の存立に重大なる脅威を  
與へたるにいたれり 帝國政府は太平洋の平和を維持しもつゝ  
全人類に戰禍の波及するを防止せむことを顧念し彼等の如く  
帝國の存立と東亞の安定とに對する脅威の激甚なるものある  
に拘らず隱忍自重八ヶ月の久しきにわたり米國との間に外交  
交渉を重ね米國とその背後にある英國ならびにこれら兩國に附和  
する諸邦の反省をもとの帝國の生存と權威との許す限り互  
譲の精神をもつて事態の平和<sup>的</sup>解決につとめ盡くすべきを盡くし  
たりべきをなしたり 然るに米國は徒らに架空の原則を弄し

て東亜の明々白々たる現實も認めずその物別勢力を恃みて  
 帝國の眞の国力を悟らず予國とともに露はに武力の脅威を増大  
 して帝國を屈從し得べしと天下かく平和的キ装にふり米國な  
 らばにその予國に對する關係を調整し相携へて太平洋の平和を維持  
 せんとする希望と方途とは全く失はれ東亜の安定と帝國の存立と  
 はまに危殆に瀕せり事ここに至る。つゝに米國および英國に對し  
 宣戰の大詔は決行せられたり聖旨を奉依して洵に恐懼感激に  
 堪へずわれら臣民一億鉄石の團結をもつて蹶起勇躍し國家  
 の總力をあげて宣戰の事にしたがひもつて東亜の禍根を永久に克除  
 し聖旨に応へ奉るべとの秋なり。惟ふに世界平和とて各  
 そのところを得しむの大詔は煩として日皇の如し帝國が日滿華三国  
 の提携により天榮の寶もあげ進んで東亜興隆の基礎を築かんと  
 するの方針はもとより渝らんとさなくまた帝國と志同を同じうする  
 獨伊兩國と盟約して世界平和の基調を畫し新秩序の建  
 設に邁進するの決意はますます一軍國たるものありしかして  
 今次帝國が南方諸地域にたいし新たに行動を起すのやむを  
 得ざるにいたる何うその住民にたいし敵意を有するものにあらざる  
 たび天災の暴政を排除して東亜を明訓本然の姿に復し相携

D

5

5

5

1

へて大業の興を鎮えんと冀念するに他ならず帝國はこれら

住民はわが眞意を諒解し帝國としては東亜の新天地に新たなる

奇蹟を期すべしと信じて疑はざるものなり

いまや皇國の隆替東亜の興廢は此の一舉にかゝれり全国民

は今次征戦の淵源と使命とに深く想を致し苟くも勝ることなし

また念ふことなく過しなく研へらして我々祖先の遺風を顕彰し

難關に遇ふや必ず國家興隆の基を築き我々祖先の赫赫たる史

績を仰ぎ雄渾深遠なる皇業の興衰發達に奇蹟を期すを誓ひ並んで

征戦の目的を究達しもて聖慮を永遠に安んじ奉らばことと期

せざるべからず

not used

Tampa Gazette

at 101 N. 1st St. Tampa, Fla.

and 101 N. 1st St. Tampa, Fla.

101

ン

Doc. 1555E

# 大詔を拝し奉りて

東條内閣總理大臣放逐

又今宣戰の御詔勅が漢字せられた精銳なる帝國  
陸海軍はもや決死の戦を行ひつてあります。東亞全周の  
平和はこれに熱願する。赤國のあらゆる努力に拘はらず  
遂に決死のやみぎに至つてあります。過般米政府  
はあらゆる手段を盡くし對米國交調整の成立に努力  
して参りましたが、彼は従来の主張と一歩も譲らざるを  
みえ、あつて英蘭又と聯合して支那より我陸海  
軍の無條件全面撤兵、南京政府の否認、日徳伊三國  
條約の破棄を要求し帝國の一方的譲歩を強要  
して参りましたが、これに對し帝國は、あくまで平和的  
妥結の努力を続けましたが、米國は何言又省の色  
を示さず、今日に至りました。もし赤國にして彼等の  
強要に屈從せんが、帝國の權威を失墜し支那華北  
の完全な覇を握るのみならず、ついに赤國のなまじり  
危險に陥らざる結果とあるたてあります。事ここ  
に至りしは赤國は現下の危局を打開し自ら自衛

1555E

Doc. 1555E

を全うするため断乎として起ち上るのやまふかに  
至つてあります。今日宣戦布告の大詔と稱しして  
恐懼感激に堪へず、私不肖なりといへども一身を捧  
げ、決死報答、唯々宸襟を安んじ奉らんとの全願  
のみであります。國民諸君も又己の身を顧みず、醜の  
御肩たるの光榮を同じくせらるるものと信ずるもの  
であります。凡そ勝利の要訣は「必勝の信念」を  
堅持することであり、建國二百六十年——我々は  
未だかつて戦ひに敗れたるを知りませぬ。更張の回  
顧こそいかに強敵をも破砕するの確信を生ず  
るものであります。我等は光輝ある祖國の歴史を直じ  
て汚したるのと同時にさらに燃えある帝國の明日を建  
設せんことを固く誓ひております。顧みれば我  
等は今日まで隱忍こ自重といふ最大限を重ねたので  
ありますが、斯くて安んじを求めたものでなく又敵の  
強大を感れたものであります。ひたすら世界平和  
の維持と人類の災禍の防止とを顧念したる  
に外ありません。而も敵の挑戦を受け祖國の生存と

Doc. 1555 F

權威とが云々に及びましては決然起たざるを得ない  
が、あまや。当國の敵は物資の豊富を誇り、  
これによつて世界の制覇を企ててゐるが、あまや。  
この敵を粉碎し、東亞不動の新秩序を建設  
せざるには当然長期戦たることを豫想せねば  
ならぬ。これと同時に絶大の建設的努力を要する  
ことを言ふを要しぬ。かくて我等はあくまで最終の  
勝利が祖國日本にあると確信し、いかなる困難  
も障碍も克服して進まなければならぬ。これが  
昭和の臣民我等等に課せられた天與の試煉を  
突破し、後にこれ大東亞建設者としての榮光を  
後世に荷ふ事が出るものであらず。これにあり、  
滿洲國及び中華人民國との一億人の關係を  
深く結ばし兩國との盟約を結ぶ、國益も加へて  
あるを欣快とするものであらず。帝國の隆盛、  
東亞の興隆、まことに此の戦に在り、億國民が、  
あけて國に報ひ、國に殉ずるの時、今はあまや。  
八紘と宇とを統一皇國の下に、この東亞建設の大業

4



10.5

Doc 1555E

ある限り、其末と雖も、何等悔ふるに足らぬ  
であらう。勝利は常に御威光のもとにあり、確と致す  
てあります。私はここに一つしんで、微衷を推薦  
し、國民と共に大業を遂げ、其の功を世に傳へて  
あります。

Doc. 1553

# TOKYO GAZETTE.

第五編 第六号 昭和十六年十一月五日（金）  
縮刷版 昭和十六年十一月五日（金）  
ヨリ、抜萃

160.1

# 防共協定更に五ヶ年延長

情報局発表

昭和十二年十一月二十五日 日独兩國間締結せられたる共產  
イターナショナルに對する協定、すなわち、いわゆる防共協定  
は翌昭和十三年十一月十日伊國が原署名國として加入した外  
爾後滿洲國、匈牙利國、スベイト國の加入を見加入國六ヶ國と  
數ふるに、たゞその効果を發揮し来た次第であるが、五ヶ年の  
同協定有効期間は今回満了することとなり、締約國間  
おと協議の結果、本協定の效力をさらに五ヶ年延長するこ  
とに意見一致し、二十五日ベルリンにおいて日独伊滿洲西の六ヶ國  
の全權の間、本協定效力延長に関する新議定書の調印  
を了した。え、え、え、共產イターナショナル即ちコミンテルン  
は國際的の組織を有し、世界各地において共產主義的攪  
亂工作を行ひ、これは傳説するまでもなく、従つてこれが防  
衛工作もまた國際的なるを要するものがあるが、東亞の新秩  
序確立と國家の基幹ともなる帝國といはますく、防共の  
必要を痛感するもので、従つて今回防共協定を更  
新と見らるゝのみならず、新議定書の條項にもつぎ、新

Doc. 1555H

たに支も同くする諸國家の協定は參加が豫見せらるる  
に至つたことは誠に慶祝に堪へない次第である。この新  
議定書の内容は次の通りである。

### 議定書

大日本帝國政府、ドイツ國政府およびイタリヤ王國  
政府およびハンガリー王國政府、滿洲帝國政府  
およびスペイン國政府は共産主義者——ソビエトの活動  
に對する防衛のため右諸國政府が締結したる協定の  
最も效果ありしことを認め、かつ右諸國の一致せる利害が  
またさらに右共同の敵に對するその緊密な協力を  
要求すること確信し、該協定の有効期間を延長  
することに決し、その目的の爲たう該協定を協定せり。

第一條 千九百三十六年十月二十五日の協定および附  
屬議定書および千九百三十七年十一月六日の議定  
書より成り、かつハンガリー國が、千九百三十九年

二月二十四日の議定書により、滿洲國が、千九百三十九  
年二月二十四日の議定書により、およびスペイン國が  
千九百三十九年三月二十四日の議定書により、公衆に

したる共立憲イタリヤに對する協定は、  
一九四一年十一月二十五日より五年内延長  
せらるべし。

第三條 共立憲イタリヤに對する協定の  
原署名國としての大膽なや國政府、ドイツ國政府  
およびイタリヤ王國政府の勸誘により右協定に  
参加せしむる諸國はこの参加を宣言と文書と  
してドイツ國政府に傳達せしむ。ドイツ國政府は  
これを受領し他の締約國政府に傳達せしめ、  
右参加はドイツ國政府が参加を宣言と受領  
したる日より效力を生ずべし。

### 第三條

本議定書は日本文、ドイツ文、およびイタリヤ文と  
作成せられ、この各本文ともして正文とす。本議定書  
は四署名の国より等効をせらるべし。

締約國は第一條に規定する五年の期満了と同時に

適当な時期におき、爾後におけるこの協力の態様を  
再考し、必要に応じて本協定を改定し、各署名國政府  
の承認を以て之を正式に承認せしむ。



No. 2

Doc/1552 Item 57

臺灣第三七四三號

條三普通通第六節

昭和十七年六月二十五日

陸軍次官殿

瑞西國公使代理者「ワヅミン」

大佐、會見許可要請ニ關スル件

本件ニ關シ、今般在京瑞西國公使ヨリ、米國政府、希望トシ  
テ十九百二十九年ノ付、唐、取扱ニ關スル條約、等ハ十六條  
第三項ニ基キ、同公使ノ指定スベキ代理者、互會人無シニ  
テ、在善通寺收容所「ワヅミン」大佐、會談スルコトヲ  
許可セラレ、度日申越ニタル處、委細別添譯文ニテ仰シ  
承、上右ニ對スル貴省、意趣、御、回示相煩度

外務次官

Doc 1552 Item 57

No. 3

六月十八日附東郷外務大臣宛在京瑞西

公使來翰 (CC. 1. 2. 7-100-1) 譯文

以書翰啓上致候陳者既三屢次、拙翰ヲ以テ御通報  
致置キタル所屬、訪問就中、千九百一十九年七月二十七日、停  
虜條約第八十六條第二項、実施方ニ関シ本國政府ヨリ  
電報ニ依リ、米國政府ハ本使ガ善通寺停虜收容所  
ハ「マツミラン」大佐ト五僱人ヲ交ヘスニ會談スル、許  
可ヲ得ルコトヲ希望シ居ルニ日清通報申上候  
本使ハ本件要請ヲ關係官廳ニ移牒シ、日本政府ガ文ヲ  
受諾スルモノナリヤ否ヤヲ御回報相成ラバ幸甚ト存スル  
次第ニ用座候  
米國政府トミテハ右要請、受諾セラレタル場合本使、代  
理ガ右訪問ヲ行フモ差支ヘ之無キモノト思料致候  
本使ハ貴大臣ニ向ツテ殊甚ナル敬意ヲ表シ候 敬具



Doc. 1552 Item 57

N. 4

證明書

國際偵察部 第一五五二五八號

根據及公正之關係證明

余中西定造(音訳 Sadayoshi NAKANISHI) 公余方下記資格ニ於テ即日本  
係屬情報局長トテ日本政府上公的關係ニ在リトシ並ニ該官吏  
トシ余が添附シタル一冊ヨリ成ル一九四二年(昭和十七年)九月四日  
駐日公使附下記題名即チ係屬情報局長トシ日本係屬情報局  
通信、製本總、文書保管ニ任スルコトヲ茲ニ證明ス

余更ニ添附記録及文書ヲ日本政府、公文書トシトシ並ニ右カ下記名稱省  
大部局公文書類及綴一部ナルコトヲ證明ス(若モテハ綴番子又ハ引用其他  
公文書類及綴於テ該文書成規所存公文名稱ヲ特記ス)係屬情報局  
一九四二年(昭和十七年)七月三日

東京ニ於テ署名

當該官吏署名欄 S. 中西 S. NAKANISHI (署名捺印)

在者、公的資格 日本係屬情報局長

證明

公式入午ニ關スル證明

余(イ・エ・ア・ニ・ナ・中尉) 公式入午ニ關スル證明

最高指揮官總司令部關係下ニ在リトシ並ニ記題名、文書、余が

公務、日本政府、記署名官吏ヨリ成ルモノナルコトヲ茲ニ證明ス

東京ニ於テ署名

姓名欄 工島(イ・エ・ア・ニ・ナ・中尉) 公式入午ニ關スル證明

在者、公的資格 調查官 I. P. S.

證明

人 付大尉(イ・エ・ア・ニ・ナ・中尉) 署名

步兵中尉 A G, G H A F E C  
陸軍總司令部軍務局附

光緒

TOKYO GAZETTE

三目号 (宣明三ノ頁至四ノ頁) 一、

外務大臣 東郷平八郎

皇軍力果重ニ於テ米支度成、基地ニ於テ、精進ニ米軍  
ノ成果ヲ擧グ且興業、大業ガ成リテ道ニノ意ニ於テ  
時ニ當リ 諸賢ニ於テ、申述ノ事、以テ、後ニ於テ、  
下ニ於テ、

此ノ機会ニ於テ、先ヅ、本ニ、我ニ、有テ、一、  
皇軍將兵ニ對シ、更ニ、成功ト、武備ヲ、  
ニ對シ、以テ、  
或ハ、  
同國 諸君ニ對シ、  
所ニ、

敬告 諸君 宜得ニ、  
カ——、  
ニ、  
ハ、  
ハ、

49

Return to Libby 371  
do not destroy

not used

No. 1



1555-L

言はるるより更に、解放も至らざる（米英）現情事者  
一、英米は「ナチス」に「ナチス」を、余らと我々、彼等、  
よく好む事と云ふ、更に、解放も至らざる（米英）  
歴史的使命ナチと確信に此大義、英米、國連の、  
「ナチス」我々が、依り達成せしむる、多量の  
結果、依り、顯現せしむる、大義、英米、國連、我々  
「ナチス」

既「前議會」に於て、説明せしむる、大義、英米、  
利己主義、搾取、領土拡張、依り、達成せしむる、米英、  
界制覇、打倒「目的」と云ふ「ナチス」我々、英米、  
解放、世界、真正の「新秩序」、建設、英米、國連、  
「ナチス」

從「英國」國政府、及「支那」國民政府、等、人、英米、  
國、我々、立場、能く、理解、當初、「目的」、英米、  
協力、ナチス、ナチス、此、間、英米、國連、  
「ナチス」

No. 2 諸般、協力、英米、ナチス、英米、國連、  
「ナチス」英米、國連、英米、國連、  
總て、國連、英米、協力、英米、國連、  
「ナチス」

1555-11

帝國ト俱ニ戰爭 條約ヲ決意シタリ又 十二日  
于日泰國ハ帝國ト同盟條約ヲ締結致シタ 日泰  
政府ハ泰國政府首腦者、遠大ニ政策ニ對シ故意ニ  
スル共ニ復等ノ建設的努力ニ對シテ我ハ帝國ト十分  
同情ト支援トヲ誓フモノナリ又

現ニ兩國間、協力ハ發展セシメ、又更ニ  
日独伊、結合ハ益々固キヲ如クハ、又、諸賢、既ニ  
御承知、通ナリ又 同盟三國間、緊密ニ協力ハ金  
爭、外交、經濟其他、分野ニ於テ著々具體化シ、又  
ナリ又 米英が如何ニ日独伊及其、盟邦諸國、幾  
ニ狂奔致シテ、絕對ニ力ハ空虛ノ餘地ハ無イナリ  
又 亞細亞諸國、鐵壁、團結ハ米英が單ニ名目上ノ存  
在ニ過キテ諸之命政府ヲ驅リ集メ出ス所謂、聯  
合國、陣營、夫レハ其、類ニ異ニシタリ又 斯ク  
如ク友邦諸國、協力ハ戰爭、遂行上、特ニ南方諸地  
域ニ對シ、日本、政策遂行上至大、貢獻ヲ爲シ、又  
ナリ又

No. 5

日本トシテ三ノ聯邦ト國家ハ其、後何等変化ヲ見ナ

155-1  
トアリマス。兩國國交、依然中立條約ニ規制セラレ  
居ルトアリマス。ソノエト、聯邦、米英ト、話合ハ、進  
展トナシ、種々ハ風説ハ、中立條約ニ  
規制セラルトシテ、現在、日蘇兩國關係ニ、何事影響、  
アリテ居ルハ、無ク、トアリマス。

日本、南米及歐洲ニ於テ、中立國トシテ、能ク限リ  
友好關係ヲ維持シ、行ク者、トアリマス。南米諸國ガ、力  
ノ要謀ニ乗ゼ、事ヲ、日本ニ對シ、敵對乃至、非友誼的  
態度ヲ採ルニ限リ、我々ハ十分、其ノ立場ヲ尊重ス、  
用意ヲ有ス、トアリマス。然レ日本政府、目下南米中、  
リボニヤネロ、會議ニ對シ、深ク注意ヲ拂フ、トアリ  
マス。

帝國ガ、以テ敵トスモノ、他トシテ、英米、全世界ニ制  
霸セリトス、野望ヲ、トアリマス。米英ハ自己ノ利益  
爲ニ、ハカニ國ヲ犧牲ニス、事ヲ憚リ、所ガ無カク、トアリ  
マス。斯レ事、例ハ全世界同知、如ク多數ニ、

敗壞ニ、墮キ、トアリマス。從テ何ノ國王最早  
此ノ上、英米黨議、犧牲トシ、如キハ想像ノ得ザル



1555-1  
テアリヌ

日本ハ蘭領東印度ノ民衆ニ對シハ些クノ敵意モ抱クモノナ  
クイテアリヌ。然レバ蘭領東印度ガ不幸ニモ米英ノ手先  
トナテ己ノ不幸ヲ招クガ如キ事ハ我々ノ意圖ニ背ク事甚  
クモキ次ハテアリヌ。

然レバ米英蘭重慶ニ相謀リテ南印度印皮ヲ其ノ軍  
事基地ト化シ蘭領東印度自身又顯著ナル敵對行爲ニ一途  
ヲ出シ至リタガ故ニ我國ハ之ニ對シ戰鬥行爲ヲ開始ス。  
餘義キニ立寄リテアリヌ。

重慶ニ於テハ未ダ若干ノ米英倭存分子ガ存在スルナ  
ス。併シ我ハ彼等モ亦金重共同ノ使命ニ邁リ致シ本  
邦ノ面目ニ背キ返リ重慶ニ於テ新秩序建設ニ協力シ来  
ルノ日ノ遠カラカシヲ信スルモノアリヌ。

今次戰爭ノ目的即チ大東亞共榮圈ノ建設ハ我ガ帝  
國肇國ノ精神ニ淵源スルト共ニ大東亞諸民族ノ共同  
偉命又使命ニ立脚スルモノアリヌ。ナルガ故ニ東亞  
防衛爲ニ絕對不可欠ナル諸地域ハ日本自ラ之ヲ把握  
スルハ全ク當然ノアリヌ。從來米英ガ領有シ来リ

No. 5





1555-1

遠征セシ詔識、把握ニ努メ且國內問題、各般ニ  
我等、至ニ命令ニ相應スル積極的態度ニ出ツト共ニ  
各民族、期待ニ對シテ之ニ對シテ十分ニ期スベ  
キナリマス、斯クテ我等、責務ハ愈々重大トナリマ  
ス。

其ニ故ニ我國民ハ一体トシテ我等、進路ニ横ハシテ障  
碍ヲ克服シテ、偉業ヲ完成スベキナリマス、斯クテ  
我等ガ聖代ニ在リマス、且我等、前ニ録リテラシ  
キ未曾有、國運承展ヲ目睹スル、特權ニ値スルモノナリトテ  
私ハ信ズ、次ヲナシマス。

No. 7